

外2-18

早稲田大学大学院理工学研究科

博 士 論 文 概 要

論 文 題 目

農村集落の空間の整序性
に関する計画学的研究

申 請 者

寺 門 征 男

TERAKADO YUKIO

平成 2 年 10 月

1. 論文の目次

はじめに

- 第1章 序論 (研究目的・背景・意義・方法・既往研究)
- 第2章 基礎的集落からみた生活圏域の構成
- 第3章 農村集落整備の地域類型とその課題
- 第4章 集落の集会空間 (施設) の構成と空間秩序
- 第5章 農山村集落の住宅及び屋敷の空間構成
- 第6章 集落空間とその形成手法に関する検討
- 第7章 空間言語 (地景名) からみた集落空間の組織化と構成原理
- 終章 各章の要約

2. 研究の目的・背景・視点・既往研究

本研究は、農山村地域の基礎的生活集団の居住の場である農村集落を対象に、農村集落のもつ空間の整序性—集落空間の内在的秩序と構成原理—について検討することを目的としている。本研究でとりあげた農村集落は、現代日本の工業化、都市化、情報化、さらに国際化による地域社会の諸変動とそのインパクトを受けながらも、農林業的土地利用を基盤とした集落または居住地として現在も存続し、景観的あるいは空間的まとまりと歴史的特性を保持している農村集落である。

本研究では、農村集落を生活空間としてとらえ集落に居住する生活集団自身が認識し、かつ共有する集落空間に関する空間秩序や仕組み等の空間の整序性について、事例集落の検討をとおして明らかにしようとしたものである。また本研究でいう集落空間とは、主体として集落に居住する生活集団がもつ生活世界のイメージの現実的、具体的な空間反映の場と所である集落の空間と環境のことをさしている。集落空間は、これらの主体の自主的あるいは自立的な創意工夫や生活に密着した知恵と協同による自然と環境への働きかけによって形成された社会的、歴史的な人為的生活空間として、また共同的、共有的空間を含んだ複合空間あるいは場所として現存するものとみる事ができる。

農村集落に関する既往の研究を概観すると、集落の物的・社会的な形態と機能、集落の生産的・経済的な構造と機能、集落の農業的・農政的な政策と制度、等に関しては既にそれぞれの分野による膨大な研究蓄積がある反面、本研究に関連する集落の空間領域や生活空間としての集落研究の蓄積は皆無に等しい状況にあった。近年やっと建築分野の集落計画研究サイドから実体的空間を主とした集落の空間研究の端緒が拓かれた現状にある。本研究は生活空間として農村集落をとらえ主体と環境系の相互対応関係の視点から集落社会自身が認識・理解する集落空間とその内在的秩序を検討しようとしている点に、数少ない関連既往研究との

大きな相違がある。

3. 研究の構成

研究の全体は、7章と終章で構成されている。第1章では、研究の目的、背景、意義、方法、既往研究を、第2章から第7章では本論を、終章では各章の要約を、それぞれ論じている。

第2章～第7章の本論は6章で構成されているが、さらに研究の範囲・展開から、第2章と第3章、第4章と第5章、第6章と第7章、とそれぞれが関連をもって6章としている。

第2章「基礎的集落からみた生活圏域の構成」及び第3章「農村集落整備の地域類型とその課題」は、基礎集落に着目した視点から集落の生活空間と地域の生活空間との相互関係の在り方について検討している。第2章では、集落を拠点とした集落主体の生活行動圏の分析から地域の生活空間の構成を検討している。第3章では、生活圏域をふまえた地域空間のまとまりとひろがりのなかで生活拠点としての集落の生活空間の位置づけと集落整備及び農村の居住環境整備上の計画条件や課題について検討している。

第4章「集落の集会空間 (施設) の構成と空間秩序」及び第5章「農山村集落の住宅及び屋敷の空間構成」は、基礎集落における集落生活の拠点空間—第4章の集会空間と第5章の住宅・屋敷空間—に着目し、集落主体による拠点空間形成の視点からその空間構成と変化の実態分析をとおして空間秩序の形成について検討している。

第6章「集落空間とその形成手法に関する検討」及び第7章「空間言語 (地景名) からみた集落空間の組織化と構成原理」は、幾つかの具体的集落を対象にして本研究の主題に直接かかわる集落空間の内在的秩序と構成原理について検討している。第6章では、第7章の予備的かつ補足的考察事例として集落の共用空間の構造と形成手法について検討している。第7章では、唐木田集落・谷集落を対象に、空間言語 (地景名) の分析手法をとおして集落主体がもつ集落空間の組織化と構成原理について検討整理している。

4. 研究の要約

第2章では、集落主体 (居住者) の生活行動分析から、生活行動頻度によって農村地域の生活圏域が動的 (不連続的) に構成されていることを明らかにし、津軽地域広域生活圏における集落 (自前園) を計画単位とした生活環境施設の計画条件・課題を整理した。

第3章では、①地域空間の仕組みの分析として、地帯分類 (平地・斜地・山地) と地域分類 (集落土地利用) をもとにした集落地域類型から集落居住土地特性を抽出し、②生活圏のまとまりとひろがりの構造を、社会生活圏 (通勤通学流動

パターン)と商業圏(核パターン)から分析し、①②の対応から集落整備計画のための地域類型と課題を明らかにし、地域条件と集落整備計画の接点として集落計画上の課題を整理した。また第2章の成果をふまえて農村と集落の居住環境形成の課題として、集落計画を中心とした自前圏・学習圏・文化圏の生活圏を提案した。

第4章では、集落生活の拠点空間である集会空間(通称・集会所とか部落集会所と呼ぶ)を、集落主体の拠点形成の視点からとらえ集会所建設時期(明治期から昭和50年代まで)別にみた集会所プランの分析から、平面構成にみる集落主体の空間要求の型と空間形成の秩序を明らかにした。また集会所づくりの事例調査分析から集会空間の原型とその変容の仕方、及び集落固有(土着型)の空間形成手法について整理した。

第5章では、集落主体の拠点空間である住宅・屋敷空間の構成とその変化について、住宅・屋敷プランと集落配置プランの実態分析から、①平地村の既存住宅と新築住宅の規模とプランにみる住居空間構成の地域特性をもつ変化の仕方、②山村の伝統的住宅・屋敷空間の住宅プランと屋敷・環境パターンの変化の仕方、③移転集落における集落団地の規格住宅プランと宅地空間の変化の仕方、を明らかにし、農山村集落の住宅及び屋敷空間一住宅とその周りにみる地域的な空間構成と秩序について整理した。

第6章では、集落の景観的、空間的まとまりと歴史的特性をもつらつの集落を対象として、それらの集落空間のもつ具体的な構造と地域特性、特徴的な空間言語、主な形成手法、等について調査検討したものを整理した。

第7章では、集落における空間言語(地景名)を収集し、その分類と類型により集落自身が認識・共有する集落空間の構造を明らかにし、空間言語の分布とその意味の分析から集落空間の組織化と構成原理にかかわるらつの概念(形成原理)を抽出した。また生活空間の統合原理として空間指示語の存在について指摘した。

5. 研究の意義

農村集落の空間の整序性に関する計画学的研究は、農村計画(研究)において、特に既存集落の特性を活かした集落空間や景観の保全的開発整備手法、また集落居住地環境の包括的アメニティ整備手法の研究をはじめとする農山村の居住地環境計画の方法にたいして有意義な計画基礎資料を提供するものである。